



- ⑤青い体に黄色の縁取りや斑点があるアオウミウシ。体の前の方には2本の赤い触角がある。
 ⑥カイメンを食べるアオウミウシ。体の後ろに花のような形のえらがある

アオウミウシ

学名 *Hypselodoris festiva*

- 分類 裸鰓目イロウミウシ科アオウミウシ属
 分布 日本周辺～東シナ海沿岸
 体長 5㌢前後
 食べ物 カイメン類
 特徴 鹿児島県内では種子島以北の

海で確認されており、これより南では見かけない。1匹の体に雄と雌両方の性質をもつ雌雄同体で、2匹いれば繁殖（交配）ができる。渦巻き型の卵のかたまりを産み、数日でふ化する。ふ化した赤ちゃんは植物プランクトンを食べながら漂い、ある程度成長すると海底に降りて大人と同じ姿となる。特定のカイメンのみを食べ、そこに含まれる毒成分を体内にため込んで防御手段とする。寿命は1年未満とされる。

目立つ外見「まずさ」表現

アオウミウシを見て、すぐに名前が分かる人はどのくらいいるでしょうか。青い体に黄色の縁取りや斑点、体の前の方には2本の赤い触角がうさぎの耳のように立ち

上がり、後ろの方には花のような形のえらがあります。ウミウシは装飾的な体と多様で美しい色、模様から「海の宝石」ともいわれます。世界中に約6千種類がいる

と推定され、日本では1400種類以上が見つかっています。中でもアオウミウシは日本近海にのみ生息する種で、春の磯に行けば簡単に見つけられます。しかし世界的には珍しく、日本を代表する種といえます。厳しい自然界で、目立つ色や模様にどんな意味があるの

おもしろ生き物図鑑 かごしま水族館から

ででしょうか。ウミウシの派手な色彩は、主に外敵から襲われないように警告の役割が強いとされています。ウミウシは巻き貝の仲間ですが、多くは貝がらを持っていません。成長途中でめき捨ててしまうのです。身を守るための貝がらを失う代わりに、狭いところも自由に出入りできる柔軟性を手に入れました。外敵から襲われないように、えさから毒成分を取り込み、体内にため込み「まずい」体となりました。ウミウシを食べるとまずいことを知らせるために、派手な色をしていると考えられています。かごしま水族館ではアオウミウシ以外にもさまざまな色彩のウミウシを常設展示しています。ぜひお気に入りを見つけてください。ね。（展示課魚類展示係・西田和記）